

令和7年度実績

献血くまもと



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society



高校生ボランティア活動



熊本県



熊本県赤十字血液センター

はじめに

県民の皆様には、日頃から献血への御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年度も、皆様からいただきました温かい御支援により、病気やけがなどで輸血を必要とする多くの患者さんの尊い命を救うことができました。重ねて感謝申し上げます。

さて、近年では、少子高齢化社会の進展に伴い、特に、若年層の献血者数は減少傾向が続いているなど、献血者数の確保が年々難しくなっており、将来にわたって安定的に血液を確保することが喫緊の課題となっています。また、輸血に使用する血液は現在も人工的に造ることができず、長期保存することもできないことから、一年を通じて多くの県民の皆様の継続的な御協力が不可欠です。

このため、熊本県では、第8次熊本県保健医療計画に基づき、関係機関と連携し、高校献血や献血セミナー、はたちの献血キャンペーンなどの実施により若年層の献血への理解促進を図るとともに、SNSを活用した広報を行うなど、将来にわたり全年齢層で献血を支え、安定的に血液製剤を供給できる環境づくりに取り組んで参ります。

これまで献血の経験がある方には、引き続き温かい御支援と御協力を、献血の経験がない方には、是非、新たな一歩を踏み出して献血に御協力いただき、県民みんなが安心して笑顔になる、くまもと新時代を共に創って参りましょう。

熊本県としまして、熊本県赤十字血液センターをはじめとする関係機関と連携を図りながら、血液製剤の安定供給を通じて、県民の皆様の命と健康を守って参りますので、今後とも御協力をよろしくお願いいたします。

熊本県知事

木村 敬



ごあいさつ

平素は、皆様へ献血のご協力をいただき大変感謝申し上げます。

昨年度は、全国の血液センターにおいて重大事故が続けて発生し、血液事業としてインシデントやアクシデントを通して大きく見つめ直す年となりました。コロナ後、医療は多くの事業が赤字となり、特に日本では、今後の人口減少で医療の質を保ちつつ、その規模を徐々に縮小していかなければ、医療を継続していくことは不可能でしょう。血液事業も例外ではなく、安心安全な血液製剤を供給するためにコンパクトで質の高い製造供給体制を構築しなければなりません。

さて、長年献血者の皆様にお使いいただいております献血カード及び献血手帳の発行・更新が令和8年1月5日をもって終了したことにより、献血Web会員サービスアプリ「ラブラッド」へと移行しました。全国でアプリが導入されて3年以上経過しましたが、アプリでは献血受付の際に画面表示による非接触での受付が可能となり、事前予約・事前問診機能や検査サービス通知の閲覧機能といった献血者サービスの向上を目的とした機能が利用できるようになりました。熊本県においても、あらかじめ献血日時を予約して来られる方が、成分献血で95%、全血献血で50%となり、献血での待機時間が大幅に短縮されるため、頻回に献血をしていただく方には大変便利になりました。引き続き、献血者の皆様に利便性の高いサービスを提供できるよう努めてまいりますので、献血カード等の発行・更新終了をご理解いただけますと幸甚に存じます。なお、献血カード・献血手帳をお持ちでなくても献血の受付は可能ですが、次回以降、アプリによる献血の予約・受付にご協力していただきたいと思っております。

また、喫緊の課題である高校や大学等の献血においても、献血Web会員への入会を促進し、2回目、3回目と1年に複数回献血をしてもらえるよう、そして将来に渡って継続して献血にご協力いただけるよう、様々な取り組みにより充実したサービスの提供を行うこととしております。

血液製剤は有限な資源で、種類によって有効期間も違い、赤血球製剤は28日間、血小板製剤は6日間、血漿製剤は1年間です。さらに、輸血を行う際には、血液型なども合わせないとイケませんので、皆様から献血していただいた貴重な血液製剤を、過不足なくお届けしていくためには、今後もより効率的な献血・輸血体制を構築していくことが大切です。

最後に、献血者の皆様と医療機関の皆様との気持ちを繋いで、さらなる信頼を得るよう、血液センター職員一丸となって今後も精進してまいります。より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和8年4月1日
熊本県赤十字血液センター
所長 米村 雄士

CONTENTS

ごあいさつ	1	献血功労表彰	14
献血の成り立ち	2	医薬情報活動	14
熊本の献血のあゆみ	3	供給状況	15
献血から輸血まで	4	ボランティア	16
献血方法別の献血基準	6	熊本県学生献血推進協議会	16
献血の流れ	7	献血推進・広報活動	16
献血Web会員サービス「ラブラッド」	8	ありがとうのメッセージ	18
検査成績のお知らせ	9	骨髄バンク事業	19
献血状況	10		

献血の成り立ち

我が国における血液事業は、戦後まもなく、民間、日本赤十字社及び公立の血液銀行によって始められましたが、その大部分は民間製薬会社による売血に依存したものであったため、「黄色い血液」と呼ばれる輸血用血液の品質低下や輸血後肝炎の多発などの弊害が増加し、大きな社会問題となりました。

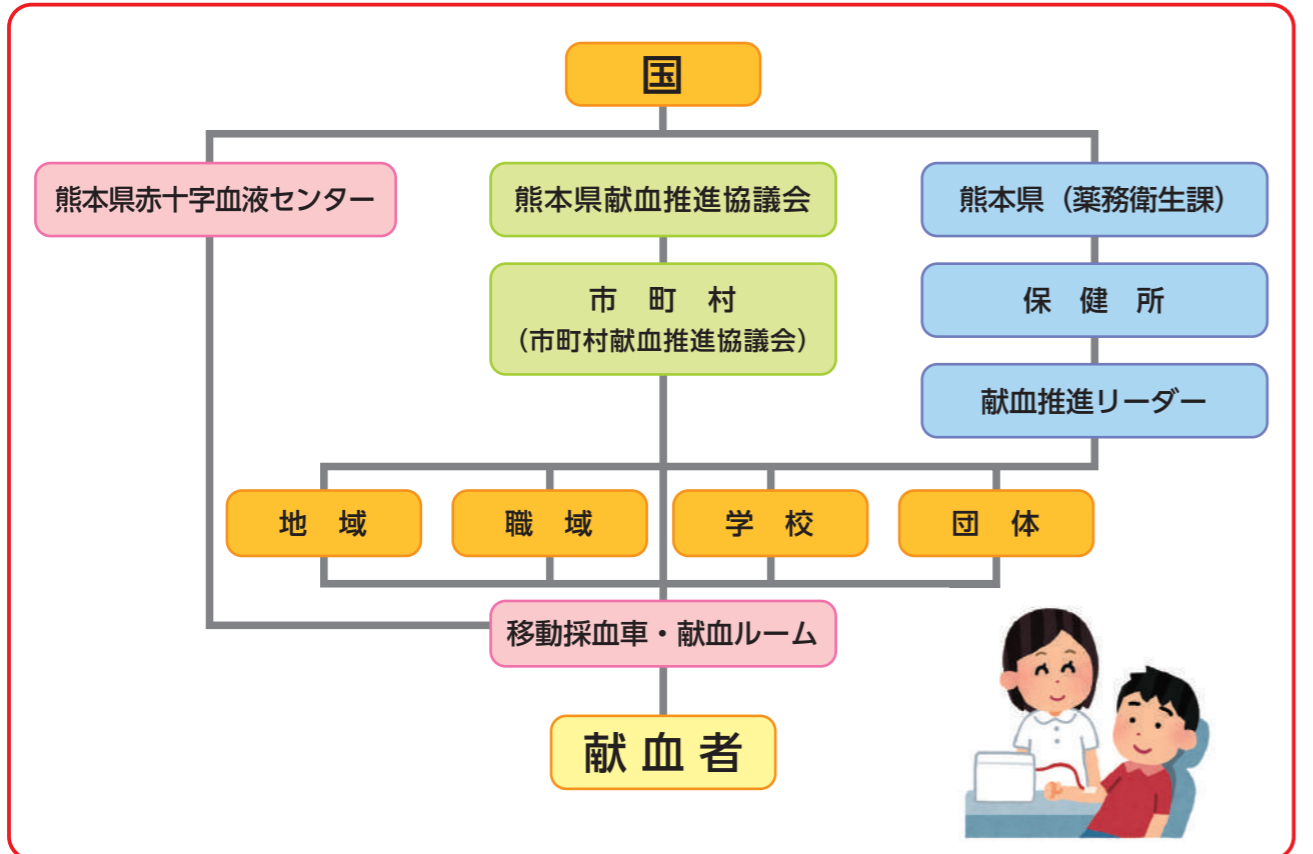
このため国は、昭和39年8月21日に、「献血の推進について」の閣議決定を行い、献血は、国、地方公共団体及び日本赤十字社の三者が一体となって推進することが明確になりました。これにより、献血思想の普及・献血者の確保・組織化については、国及び地方公共団体が中心となって行い、献血の受け入れから検査・製剤・供給までを赤十字社が行う体制が整えられ、すべての輸血用血液は、献血により確保されることとなりました。

また、輸入された血漿分画製剤により多くの血友病患者がエイズに感染するという不幸な歴史を教訓として、血液製剤の安定供給等をめざす「国内自給の確保」を基本理念とした「安全な血液製剤の安定供給の確保に関する法律」が平成14年7月31日に公布され、平成15年7月30日から施行されました。

国及び地方公共団体の責任を明確化

血液製剤の安全性の向上や安定供給の基本方針を国が定め、国内自給に向けた献血に対する国民への理解促進、ならびに血液製剤の使用適正化の推進は国の責務であるとされました。また、国は毎年度ごとに、必要な献血血液の確保目標量や献血推進計画を策定することとなり、各都道府県・市町村も含めて、献血推進の主体が行政にあることが明確になりました。

献血推進機構



熊本の献血のあゆみ (人)

年度	200mL献血	400mL献血	成分献血	合計
539	998			998
40	11,919			11,919
41	21,210			21,210
42	35,711			35,711
43	38,535			38,535
44	38,644			38,644
45	39,241			39,241
46	40,641			40,641
47	44,926			44,926
48	49,903			49,903
49	56,625			56,625
50	57,965			57,965
51	74,001			74,001
52	88,544			88,544
53	115,056			115,056
54	133,290			133,290
55	154,650			154,650
56	172,863			172,863
57	176,970			176,970
58	176,687			176,687
59	197,177			197,177
60	192,075			192,075
61	148,881	33,852	454	183,187
62	136,414	36,299	1,789	174,502
63	135,110	38,961	2,252	176,323
平成元	129,738	39,454	3,327	172,519
2	116,208	40,128	10,338	166,674
3	108,923	43,269	26,003	178,195
4	89,478	43,986	34,861	168,325
5	63,466	45,011	40,815	149,292
6	49,500	50,411	40,469	140,380
7	42,525	49,941	31,576	124,042
8	43,751	50,109	31,714	125,574
9	47,602	51,073	32,068	130,743
10	43,615	54,818	34,414	132,847
11	43,677	54,518	32,122	130,317
12	35,087	57,163	30,811	123,061
13	27,423	57,465	30,883	115,771
14	22,367	54,954	27,223	104,544
15	10,714	54,993	26,496	92,203
16	9,430	52,581	26,862	88,873
17	8,385	56,596	25,385	90,366
18	4,813	55,301	21,654	81,768
19	1,874	56,472	22,219	80,565
20	1,319	58,165	23,445	82,929
21	1,061	60,846	22,866	84,773
22	1,070	61,624	21,513	84,207
23	1,001	59,507	22,623	83,131
24	1,351	58,831	22,408	82,590
25	1,174	56,269	22,663	80,106
26	825	55,817	19,739	76,381
27	1,113	56,422	17,075	74,610
28	953	45,862	15,276	62,091
29	1,083	51,294	17,967	70,344
30	1,184	51,443	19,138	71,765
令和元	1,308	52,385	20,706	74,399
2	1,185	53,237	22,647	77,069
3	1,262	52,006	21,794	75,062
4	851	50,717	21,181	72,749
5	863	51,313	22,603	74,779
6	547	52,506	21,953	75,006
7	737	52,643	21,462	74,842
累計	3,255,499	2,058,242	910,794	6,224,535

年	推移
昭和39	献血についての閣議決定
40	熊本県献血推進協議会設置 熊本県赤十字血液センター開所 移動採血車しほはと号による献血開始 市町村献血推進協議会設置始まる
43	日赤熊本県支部・血液センター合同社屋新設
44	献血者10万人突破 水俣出張所開設
46	98全市町村に献血推進協議会設置完了
48	熊本県Rh(-)友の会発足
50	日赤熊本、現在地に新築移転
52	献血者50万人突破 血液検査サービス開始
54	献血率で日本一
56	献血者100万人突破
57	献血手帳の「供給欄」廃止
59	下通り献血ルーム設置
60	献血制度20周年記念熊本県民大会
61	400mL献血・成分献血の開始 献血者200万人突破 エイズ抗体検査開始
63	エイズ自己申告制度開始
平成元	日本血液事業学会を熊本市市民会館で開催
2	市町村におけるオープン採血による成分献血の開始 第26回献血運動推進全国大会を県立劇場で開催
3	成分献血のための移動採血車の運行開始 熊本県骨髓データセンター設置
4	献血者300万人突破
5	下通り献血ルーム10周年記念イベント
6	献血制度30周年記念熊本県民大会
9	日赤熊本県支部・血液センター合同社屋現在地に新築 下通り献血ルーム献血者50万人突破 県庁献血ルーム「ハービッド県庁」設置
11	献血可能年齢69歳へ引き上げ HTLV-1検査結果陽性の通知開始 NAT（核酸増幅検査）開始
12	献血者400万人突破 「ありがとう献血」熊本県民大会
14	県庁献血ルーム「ハービッド県庁」閉館 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」公布及び第16条（有料での採血等の禁止）施行
15	「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の全面施行 輸血用血液製剤の選及調査開始
16	下通り献血ルーム20周年記念イベント 献血受付の際の本人確認開始
17	下通り献血ルーム移転
18	献血手帳の磁気カード化 献血者健康被害救済制度開始
19	全血液製剤で保存前白血球除去開始 熊本県Rh(-)友の会解散 全血液製剤で初流血除去開始
20	九州ブロック血液センターの検査・製剤部門集約 検査サービス通知に糖尿病関連検査追加
21	献血者500万人突破
23	献血可能年齢の拡大及び血色素量下限値の引上げ 問診事項の一部改正
24	全国7ブロック広域事業運営体制へ移行
26	血液事業情報システム全国一斉導入 個別NAT（核酸増幅検査）開始
27	血液センター開所50周年記念式典
29	血小板成分献血上限血漿採血量の引き上げ 下通り献血ルーム移転（下通り献血ルームCOCOSAに名称変更）
30	献血受付における本人確認方法の厳格化 献血可能日の1年間の算定方法変更 下通り献血ルーム献血者100万人突破 献血推進・予約システム全国一斉導入
令和2	HEV NAT（核酸増幅検査）開始 健康診断基準の変更（血圧・脈拍・体温） 全血採血（移動採血車）指先穿刺による事前検査開始 がんの問診判断基準の変更 献血者顕彰規定の変更
3	全血採血（固定施設）指先穿刺による事前検査開始
4	ラブラッドアプリの導入 献血者600万人突破
5	赤血球製剤の有効期間が採血後21日から28日に変更 来場した全ての献血者の体重測定を開始
7	日赤プラザ献血ルームが20年ぶりにリニューアルオープン 細菌スクリーニングの導入に伴い、血小板製剤の有効期間が4日から6日間に変更
8	献血カードの新規発行・更新が終了

献血から輸血まで

熊本県では、1日平均200名の献血が必要とされています。

献血でいただいた血液は、九州ブロック血液センター（福岡県久留米市）で、赤血球・血漿・血小板に分離され、輸血の安全性を確保するための厳しい検査を行います。輸血用の血液は、各県にある血液センターから、医療機関へ届けられています。

現在、県内で必要とする殆どの血液が皆さまの献血によって確保されています。

献 血



移動採血車



日赤プラザ献血ルーム



下通り献血ルームCOCOSA



熊本県では
上記の場所で
献血できます



日本赤十字社九州ブロック血液センター（福岡県久留米市）



製剤部門

献血されたすべての血液は必要に応じて、いろいろな血液成分に分離され有効利用されます。



検査部門

献血されたすべての血液は、輸血用として安全かどうか厳しく検査されます。

安全な輸血のために必要な検査

- 血液型検査
ABO血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査、HLA検査（一部）
- 感染症検査
梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査（HBs抗原、HBs抗体、HBe抗体）、C型肝炎ウイルス検査（HCV抗体）、エイズウイルス検査（HIV-1、2抗体）、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19抗原検査
- 生化学検査（7項目）
- 血球計数検査（8項目）
- 核酸増幅検査
B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、E型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査

輸血用
血液製剤

原料血漿



熊本県赤十字血液センター

供給部門

輸血用血液製剤は血液センターで安全に保管管理し、医療機関へお届けします。



赤血球製剤

有効期間：採血後28日間



血漿製剤

有効期間：採血後1年間



血小板製剤

有効期間：採血後6日間

国内分画製剤メーカー

成分ごとに分けられた血液（血漿）の一部は、血漿分画製剤の原料（原料血漿）として血漿分画製剤メーカーへ配分されます。原料血漿はさらに様々な成分に精製され、20種類以上の血漿分画製剤となります。



免疫グロブリン製剤

免疫機能が低下した場合や重症感染症、ある種の神経疾患、川崎病などに使われます。

アルブミン製剤

やけどや出血性ショックなどに使われます。

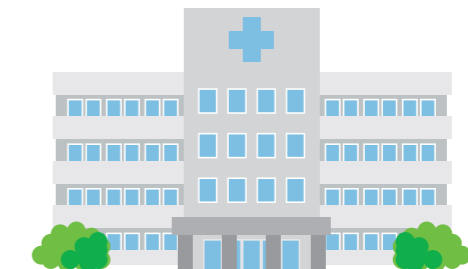
血液凝固第Ⅷ因子製剤

血友病などに使われます。

血漿分画製剤
(免疫グロブリン
製剤等)



医療機関



献血方法別の献血基準

献血にご協力いただく方の健康を考慮し、下記のような献血基準が設けられています。

献血方法別の献血基準

項目	全血献血		成分献血	
	200mL献血	400mL献血	血漿成分献血	血小板成分献血
1回献血量	200mL	400mL	600mL以下 (循環血液量の12%以内)	
年齢	16歳～69歳*	男性 17歳～69歳* 女性 18歳～69歳*	18歳～69歳*	男性 18歳～69歳* 女性 18歳～54歳
体重	男性 45kg以上 女性 40kg以上	男女とも 50kg以上	男性 45kg以上 女性 40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上 180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上 110mmHg未満			
脈拍	40回/分以上 100回/分以下			
体温	37.5℃未満			
血色素量 (ヘモグロビン濃度)	男性 12.5g/dL以上 女性 12.0g/dL以上	男性 13.0g/dL以上 女性 12.5g/dL以上	12.0g/dL以上 (赤血球指数が標準域にある女性 は11.5g/dL以上)	12.0g/dL以上
血小板数	—	—	—	15万/μL以上 60万/μL以下
1年に献血 できる回数 (1年は52週として換算)	男性 6回以内 女性 4回以内	男性 3回以内 女性 2回以内	血小板成分献血 1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で 24回以内	
1年に献血できる 総献血量 (1年は52週として換算)	200mL献血と400mL献血を合わせて 男性 1,200mL以内 女性 800mL以内		—	—

※ 65歳から69歳までの方は、60歳から64歳までの間に献血の経験がある方に限ります。

■各献血方法に共通する基準は次のとおりです。これらの項目に該当する場合は、ご本人の安全のために献血をご遠慮いただいています。

- 献血により悪化するおそれがある循環器系疾患、血液疾患、その他疾患にかかっている人。
- 健康状態が不良と認められる人。
- 妊娠していると認められる人。または過去6か月以内に妊娠していたと認められる人。



献血の間隔



献血の流れ

① 献血受付

「献血前にお読みください」及び「献血の同意説明書」の内容をご理解いただき、同意をされたうえでお申し込みいただけます。安全で責任ある献血をお願いするために身分証明書等の提示をお願いし、生体（指静脈）認証もしくは暗証番号で本人確認を行います。
※お申し込みの際の個人情報（住所・氏名など）は厳重に管理されており、外部に流出する恐れはありません。

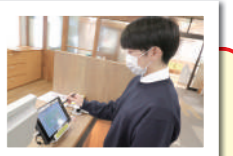


② 事前問診 (アプリの場合)

当日になるとラブラッドアプリの“事前の問診回答の開始”から予め事前問診に回答いただけます。

② 事前問診

献血される方と輸血を受ける患者さん双方の安全を守るため、献血いただく方の健康状態を何う質問に回答していただけます。



③ 問診

回答いただいた内容に基づき、医師による問診を行います。



④ ヘモグロビン濃度測定・血液型事前検査

ヘモグロビン濃度の測定と血液型の事前検査を行います。成分献血の場合は、血小板数の測定も併せて行います。



⑤ 採血

採血にかかる時間は、400mL献血は10～15分程度、成分献血は採血量に応じて40～90分程度かかります。
※採血針や採血バッグ等は一人ひとり新しいものを使用しています。



⑥ 休憩

献血後は十分に水分を補り、10分以上休憩していただけます。



⑦ 履歴の更新

アプリで、履歴・次回献血可能日ともに自動更新されます。



献血 Web 会員サービス「ラブラッド」



日本赤十字社は、平成 30 年 10 月に利用者の方へのサービス向上を目的に、複数回献血クラブ(平成 18 年開設)を献血 Web 会員サービス「ラブラッド」へとリニューアルしました。さらに、令和 4 年 9 月に「ラブラッド」アプリをリリースし、一層の利便性の向上と献血予約の推進を図るとともに、「アプリ版献血カード」や「事前 Web 問診回答機能」の導入、「プレ会員」の登録等を開始しました。

また、令和 8 年 1 月 5 日から献血カードの新規発行・更新が終了し、「ラブラッド」アプリによる献血の受付方法に統一しました。

献血予約

Webサイト・アプリから献血予約が可能!当日予約(3時間前)もできるので、お近くの献血会場を選択して、手軽に献血できます。
*献血会場によっては当日予約できない場合があります。

事前問診回答

これまで献血会場ではできなかった問診回答がWebサイト・アプリからできるようになりました。

血液検査の確認

ご自身の献血記録をいつでも確認することができます。

会員特典

ご協力いただいた献血種類に応じて、献血ポイントがたまりやすくなります。また献血予約することで予約ポイントも付与されます。それらはオリジナル記念品と交換が可能です。その他、イベントやキャンペーン情報のご案内や、便利な機能を多数備えています。

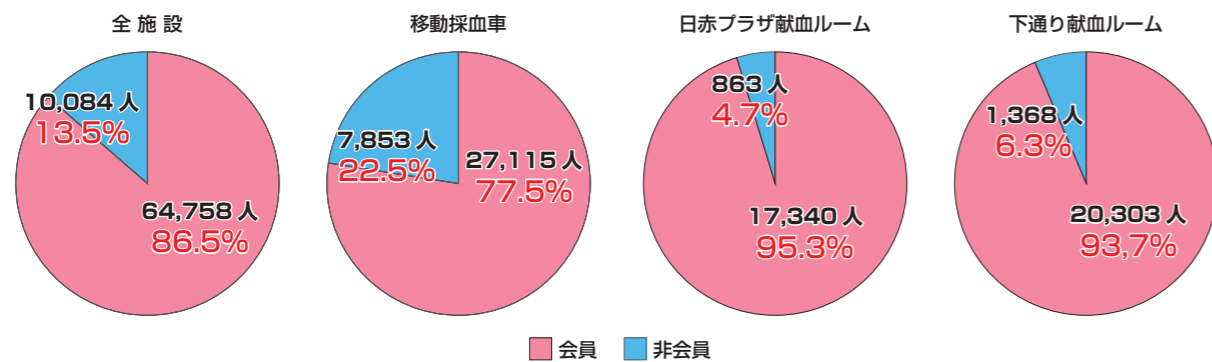
会員数

(令和 8 年 3 月 31 日現在)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
新規登録者数	1,082	4,528	4,012	8,202	7,039	6,455	7,661	8,544
総会員数	9,451	13,979	17,981	26,177	33,029	39,480	47,366	55,860

※平成 30 年 10 月 29 日に旧複数回献血クラブ会員(8,429 人)がラブラッド会員へ移行
※主登録センターが熊本となっている人数

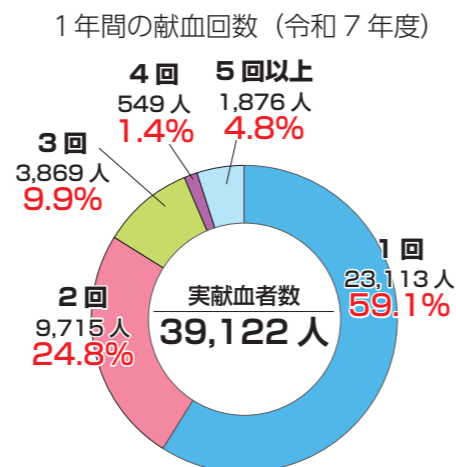
献血者に占める会員比率



一年間に複数回の献血をお願いします

県内の献血者の内、約 60%の方が、1年に1回のみのご協力で留まっています。

輸血用の血液は年間を通して必要とされています。定期的な献血のご協力を、是非お願いします。



検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方への感謝の気持ちとして、7項目の生化学検査成績及び8項目の血球計数検査成績をお知らせしています。これらの検査成績はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の会員の方は、血液検査結果が献血後 2～5 日程度で確認できます。会員以外の方は、献血後 2 週間程度で親展(書簡の郵便)にてお知らせします。平成 17 年 4 月 1 日以降の記録を確認することができます。生化学検査及び血球計数検査欄に記した標準値は、献血された方々の検査結果から算定したもので、正常はまた異常を表すものではありません(グリコアルブミンを除く)。また、献血受付時に、B 型肝炎検査、C 型肝炎検査、E 型肝炎検査、梅毒検査、HTLV-1 抗体検査の結果通知を希望された方には、異常を認められた場合、献血後 1 ヶ月以内に上記の通知とは別に親展(書簡の郵便)にてご通知します。

生化学検査

検査項目	説明
ALT (GPT)	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出すので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝(肥満)などでも上昇します。激しい運動の後に一過性の上昇がみられることがあります。
γ-GTP	肝・胆道・膵などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く、1ヶ月くらい禁酒するとある程度正常化します。
総蛋白 TP	血清中には 80 種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	血清蛋白の 50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アルブミン対グロブリン比 A/G	血清蛋白はアルブミン(A)とグロブリン(G)に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化(主として減少)してきます。
コレステロール CHOL	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝・胆道・腎・甲状腺の病気とその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすいとされています。
グリコアルブミン GA	糖尿病の検査の一つです。過去約 2 週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では標準値より上昇します。標準値範囲内でも 15.6%以上の場合は注意が必要です。

血球計数検査

検査項目	説明
赤血球数 (RBC)	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。
ヘモグロビン濃度 (Hb)	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン(血色素)によるもので、赤血球の働きを中心となっています。
ヘマトクリット値(Ht)	ヘマトクリット値は一定の血液量に対する赤血球の割合(容積)をパーセントで表したものです。
平均赤血球容積 (MCV)	赤血球 1 個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球とヘマトクリット値から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン量 (MCH)	赤血球 1 個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン濃度から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン濃度 (MCHC)	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値から算出したものです。
白血球数 (WBC)	白血球は細胞などを食し免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。
血小板数(PLT)	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすくなります。

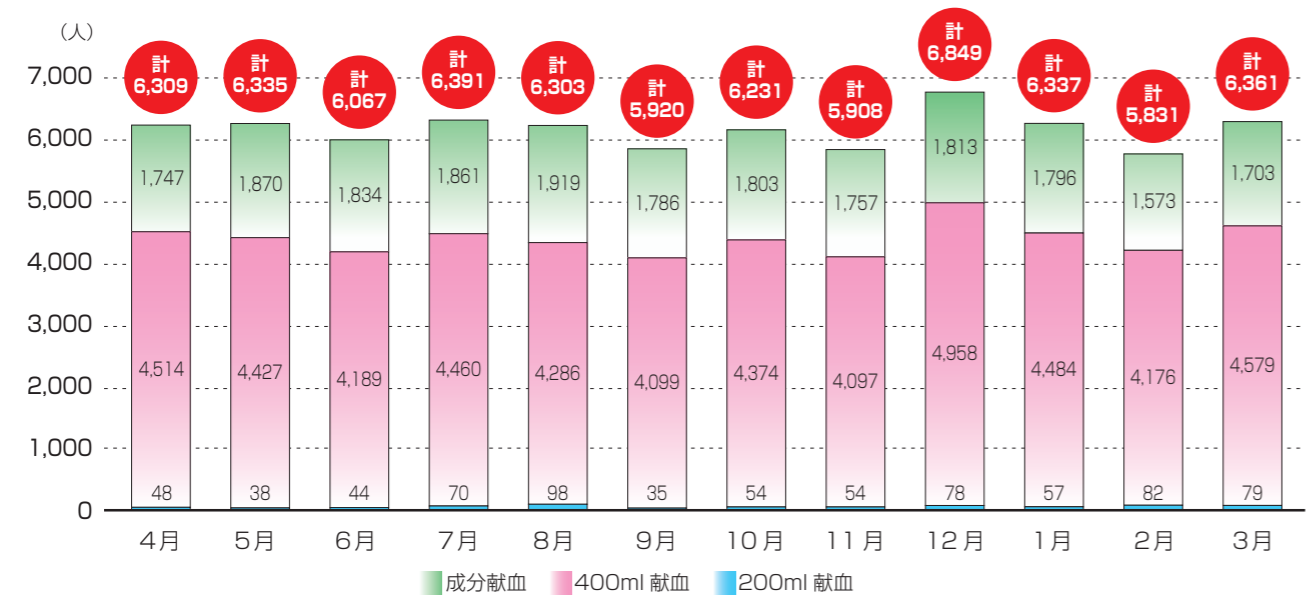
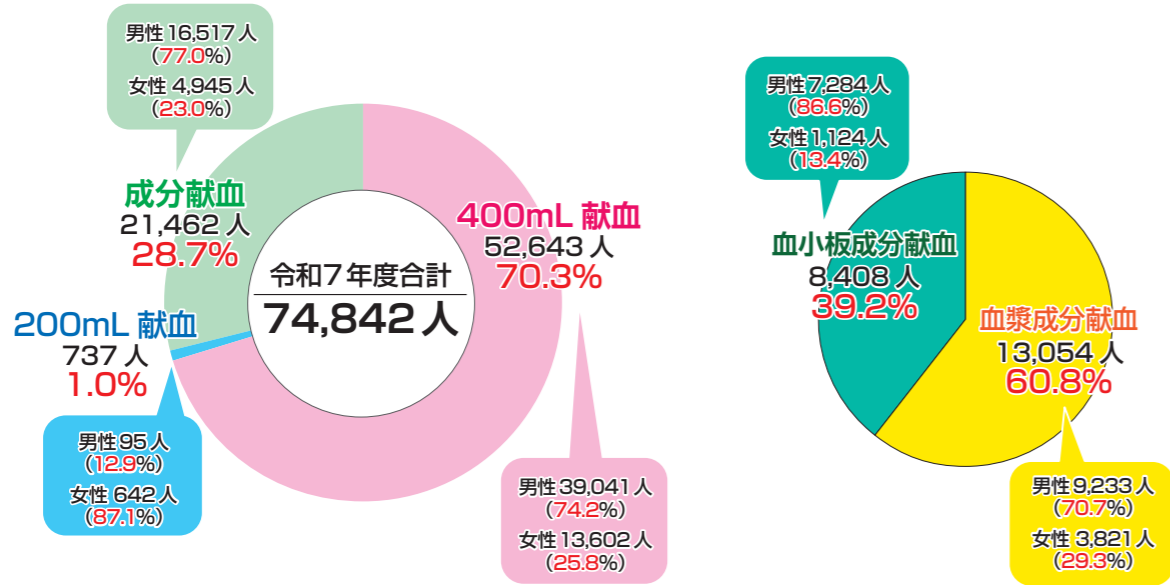
検査結果は Web 会員サービス「ラブラッド」からご確認いただけます!



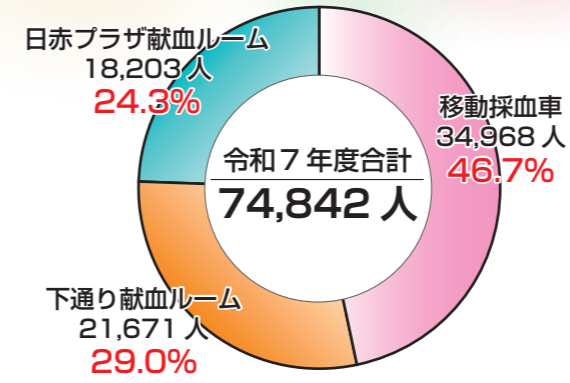
献血状況

令和7年度は、8月に発生した豪雨による水害により、移動採血の中止が余儀なくされたことや、インフルエンザなどの感染症の流行と同時期に、特にA型、O型の血液の供給量が急増するなどしたため、血液の適正な在庫の維持に苦慮する時期もありましたが、74,842人（前年度比99.8%）と多くの県民の皆さまに献血のご協力をいただき、輸血を必要とする患者さんへ不足することなく血液をお届けすることができました。施設別の献血者数は、移動採血車34,968人（前年度比99.6%）、下通り献血ルーム21,671人（同101.9%）、日赤プラザ献血ルーム18,203人（同97.6%）となりました。

① 献血種類別献血状況

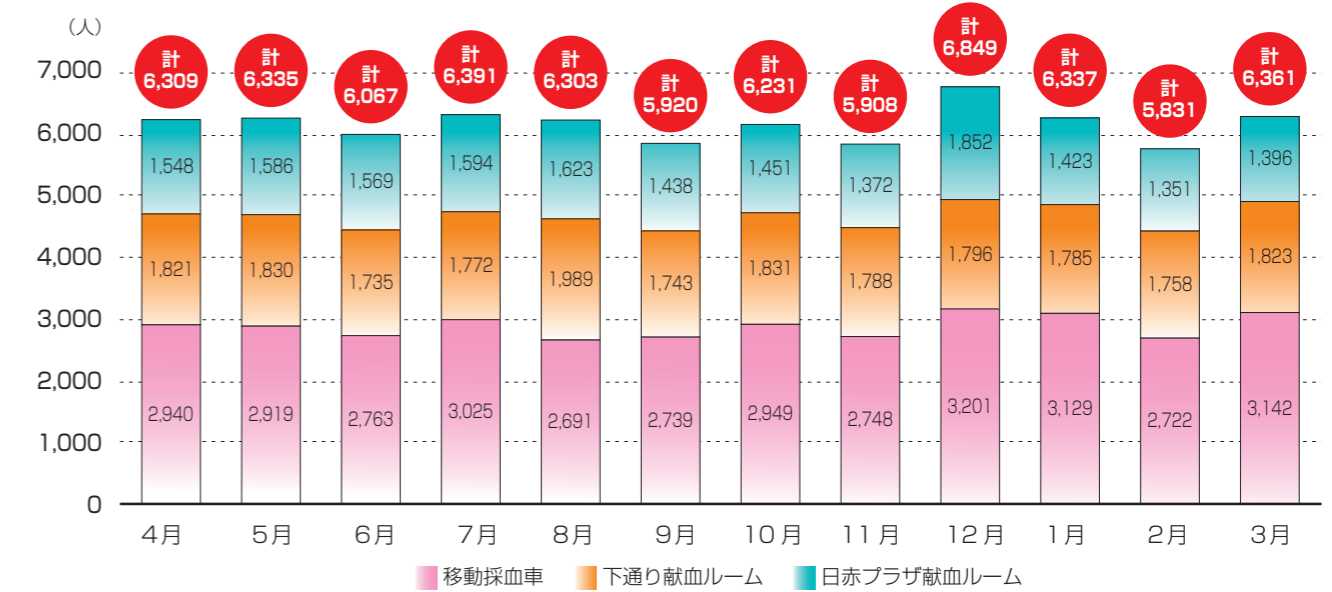


② 受入施設別献血状況



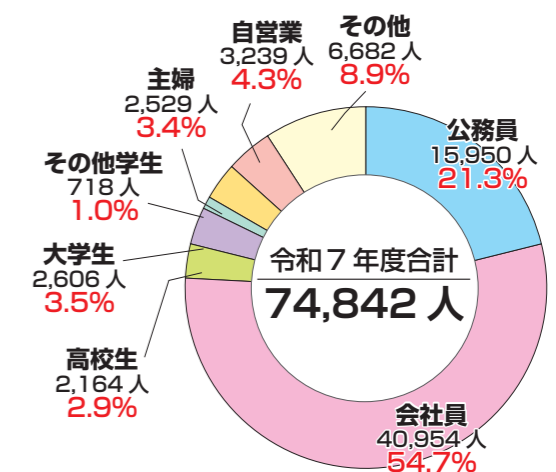
施設年間稼働数

移動採血車	679台
下通り献血ルーム	312日
日赤プラザ献血ルーム	297日



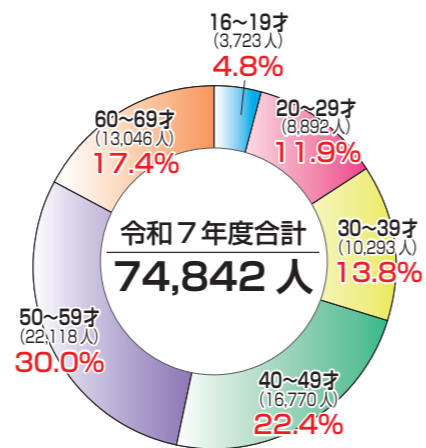
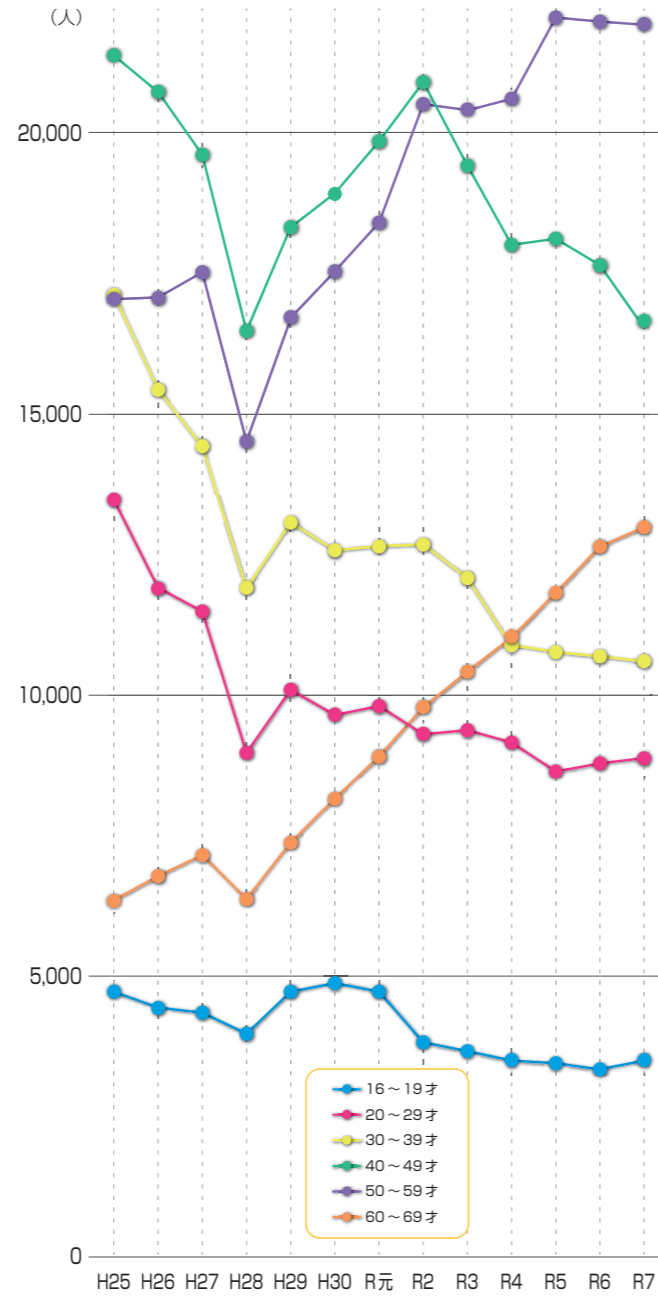
③ 職業別献血状況

	公務員	会社員	高校生	大学生	その他学生	主婦	自営業	その他	合計
令和元年度	14,675	38,738	2,390	3,041	1,358	2,990	3,773	7,434	74,399
令和2年度	15,790	41,173	2,340	2,303	847	3,112	3,813	7,691	77,069
令和3年度	15,868	39,430	2,021	2,627	968	2,903	3,575	7,670	75,062
令和4年度	14,997	38,743	1,871	2,739	895	2,719	3,352	7,433	72,749
令和5年度	15,398	40,653	1,817	2,397	799	2,682	3,436	7,597	74,779
令和6年度	15,621	40,830	1,912	2,502	675	2,716	3,399	7,351	75,006
令和7年度	15,950	40,954	2,164	2,606	718	2,529	3,239	6,682	74,842



④ 年齢別献血者数の推移

年度	16～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～64才	合計	
S60	47,621	56,292	44,719	26,530	16,913	192,075	
S61	42,820	52,344	45,200	25,968	16,855	183,187	
S62	40,293	47,236	42,799	26,235	17,939	174,502	
S63	41,467	46,108	42,044	27,785	18,919	176,323	
H1	41,422	42,588	39,918	28,989	19,602	172,519	
H2	40,889	40,207	37,548	28,854	19,176	166,674	
H3	42,232	44,185	39,798	31,222	20,758	178,195	
H4	38,398	42,727	36,524	30,380	20,296	168,325	
H5	32,235	38,736	32,338	27,695	18,288	149,292	
H6	27,215	38,407	30,508	26,806	17,444	140,380	
H7	22,836	34,501	27,038	24,633	15,034	124,042	
H8	22,023	35,743	26,645	25,921	15,242	125,574	
H9	21,413	37,449	27,946	26,964	16,971	130,743	
H10	20,066	38,510	28,342	27,278	18,651	132,847	
年度	16～19才	20～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	合計
H11	18,401	36,709	28,063	26,840	15,666	4,638	130,317
H12	16,443	33,610	26,697	25,502	15,888	4,921	123,061
H13	13,430	31,248	25,857	24,533	15,613	5,090	115,771
H14	11,161	27,302	23,988	22,428	14,924	4,741	104,544
H15	7,623	23,487	21,945	20,386	14,345	4,417	92,203
H16	6,385	22,267	21,571	20,263	14,137	4,250	88,873
H17	6,401	22,116	22,162	20,417	14,896	4,374	90,366
H18	5,024	19,379	20,889	19,066	13,903	3,507	81,768
H19	4,238	18,804	20,532	19,119	14,165	3,707	80,565
H20	3,657	18,458	21,522	19,821	15,078	4,393	82,929
H21	3,534	17,420	21,470	20,691	16,445	5,213	84,773
H22	3,601	16,146	20,926	21,312	16,492	5,730	84,207
H23	4,104	15,060	19,943	21,419	16,657	5,948	83,131
H24	4,470	14,449	18,888	21,697	16,957	6,129	82,590
H25	4,729	13,478	17,122	21,380	17,049	6,348	80,106
H26	4,437	11,910	15,430	20,743	17,072	6,789	76,381
H27	4,364	11,495	14,438	19,619	17,531	7,163	74,610
H28	3,983	8,978	11,881	16,382	14,516	6,351	62,091
H29	4,727	10,098	13,068	18,334	16,728	7,389	70,344
H30	4,880	9,662	12,581	18,928	17,547	8,167	71,765
R元	4,733	9,819	12,650	19,860	18,419	8,918	74,399
R2	3,838	9,326	12,683	20,917	20,512	9,793	77,069
R3	3,676	9,358	11,752	19,374	20,467	10,435	75,062
R4	3,461	8,816	10,833	17,892	20,842	10,905	72,749
R5	3,425	8,418	10,687	18,036	22,338	11,875	74,779
R6	3,294	8,599	10,587	17,524	22,284	12,718	75,006
R7	3,723	8,892	10,293	16,770	22,118	13,046	74,842

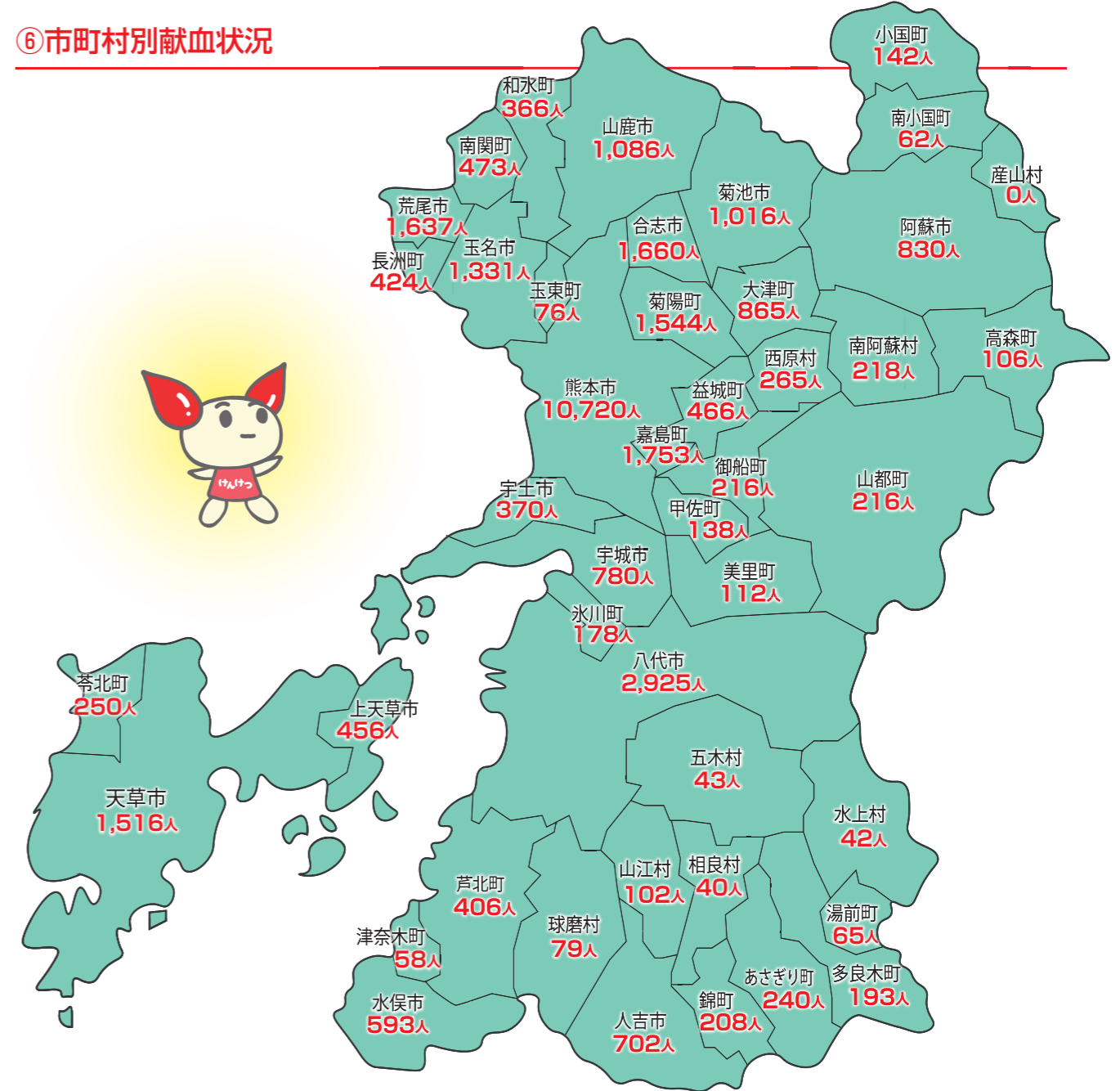


※平成11年度から献血可能年齢69歳まで拡大(平成10年度まで64歳)。

⑤ 初回献血者数の推移

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
初回献血者数	5,520人	5,462人	4,688人	4,298人	4,124人	4,161人	4,306人	4,639人
初回献血者割合	7.7%	7.3%	6.1%	5.7%	5.7%	5.6%	5.7%	6.2%
献血者数	71,765人	74,399人	77,069人	75,062人	72,749人	74,779人	75,006人	74,842人

⑥ 市町村別献血状況



	200mL 献血数	400mL 献血数	成分献血数	献血者数
市 町 村	0	34,968	0	34,968
日赤プラザ献血ルーム	88	7,681	10,434	18,203
下通り献血ルームCOCOSA	649	9,994	11,028	21,671
計	737	52,643	21,462	74,842



令和7年度 献血功労団体表彰

日本赤十字社では、継続的に献血のご協力をいただいた団体、もしくは献血の推進活動にご功労のあった団体へ感謝の意を表し表彰を行っています。

厚生労働大臣表彰状	熊本市地域献血推進連合協議会
厚生労働大臣感謝状	天草信用金庫
	学校法人 加寿美学園 熊本中央高等学校
	熊本刑務所
	株式会社サンテック 八代工場
	株式会社肥後銀行 事務センター
ライオンズクラブ国際協会337-E地区10Z 御船ライオンズクラブ	
日本赤十字社感謝状 (金色有功章受賞後10年ごと)	ユナイテッドトヨタ熊本株式会社
金色有功章 (活動年数20年以上)	株式会社熊本日日新聞社
	ヤマハ熊本プロダクツ株式会社
銀色有功章 (活動年数15年以上)	イオンモール株式会社イオンモール熊本
	熊本市消防局
	田迎・田迎西校区女性の会
	ライオンズクラブ国際協会337-E地区4Z 植木ライオンズクラブ
日本赤十字社 熊本県支部長感謝状(金枠) (活動年数10年以上)	一般社団法人 熊本県建設業協会芦北支部青年部
	熊本県熊本南警察署
	熊本県玉名警察署
日本赤十字社 熊本県支部長感謝状(銀枠) (活動年数5年以上)	あさぎり町役場
	阿蘇医療センター
	一般社団法人 熊本県建設業協会菊池支部青年部
	一般社団法人 山鹿青年会議所
	宇城市役所
ライオンズクラブ国際協会337-E地区2Z 熊本火の国ライオンズクラブ	
日本赤十字社血液事業本部長賞	ルネサスエレクトロニクス株式会社錦工場

医薬情報活動 R7年度実績

安全で適正な輸血療法が行えるよう、医療機関に対して輸血に関する最新の情報をお知らせする窓口を、学術情報・供給課に設けています。ここでは、医療機関からの問い合わせに対応したり、万一、輸血副作用が発生した場合に調査等を行い、安全な輸血をめざして説明会を実施しています。

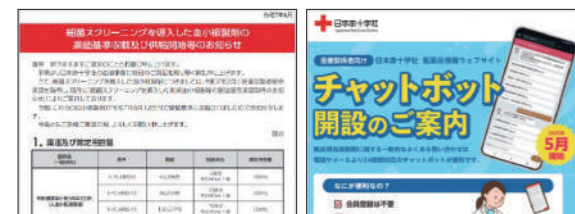
令和7年度の主な活動は、輸血用血液製剤関連資料(17種類)の配布や、副作用報告を14件、医療機関からの苦情処理対応を17件、輸血用血液製剤の取り扱い等についての説明会を8回実施しました。

また、11月には熊本県内の適正かつ安全な輸血療法の更なる向上を図るため、県主催の第16回熊本県合同輸血療法委員会講演会を共同で開催し、67施設、132名の参加がありました。

その他、自己血輸血などにおける医療機関への技術協力の窓口としての活動も行っていきます。手術前に患者さん本人の血液を貯血し、手術時に使用するという自己血輸血では、1医療機関6名の患者さんの血液を調製・保管しました。



熊本県合同輸血療法委員会講演会(11月開催)の様子



供給状況

血液センターでは、いつでも医療機関の要請に応じられるように、24時間365日体制で輸血用血液製剤の供給を行っています。

また、製剤別の過不足や、血液型別の片寄り、更には稀な血液型の患者さんの需要に対応するために、全国にある血液センターのネットワークを最大限に活用し、効率的、かつ迅速な供給に努めています。令和7年度は、県内医療機関222施設へ赤血球製剤100,486単位(前年度比98.0%)、血漿製剤30,387単位(同90.5%)、血小板製剤106,845単位(同104.01%)を供給しました。赤血球製剤と血漿製剤の供給量は昨年度から減少し、血小板製剤は大きく増加しました。



厳密な検査に合格し製造された貴重な血液製剤は、厳格な品質管理のもとに、製剤の種類毎に最も適した条件下で保管しています。

血液製剤別供給状況の推移

(200mL単位換算)

年度	赤血球製剤	血漿製剤	血小板製剤	総供給数
R1 (H31)	99,359	31,953	97,550	228,862
R2	102,636	29,869	109,330	241,835
R3	99,548	27,822	100,870	228,240
R4	102,353	31,630	102,710	236,693
R5	102,680	28,907	103,275	234,862
R6	102,545	33,572	102,650	238,767
R7	100,486	30,387	106,845	237,718

赤血球製剤

赤血球は、肺で取り込まれた酸素を全身に運ぶ役割があります。出血や血液疾患などが原因で赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用されます。(2023年3月15日供給分から有効期間が採血後21日から28日に変更)

- 保存温度：2～6℃
- 有効期間：採血後28日間



血漿製剤

複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

- 保存温度：-20℃以下
- 有効期間：採血後1年間



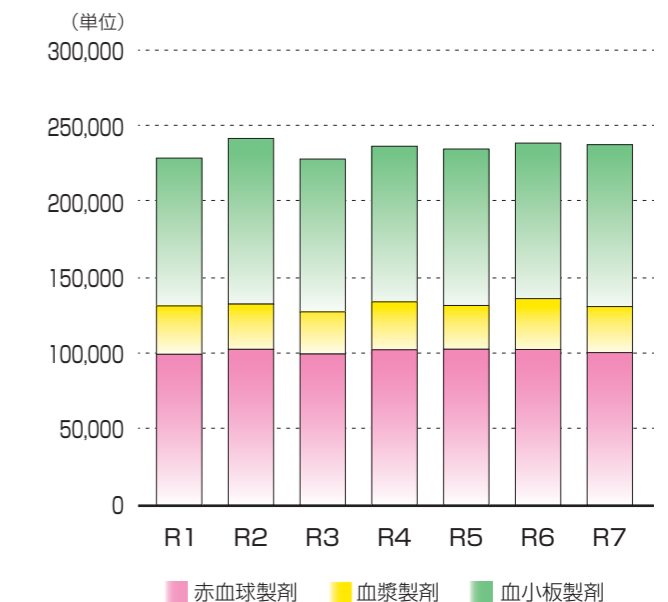
血小板製剤

血小板の減少、またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

- 保存温度：20～24℃
- 有効期間：採血後6日間



血液保管庫(赤血球製剤)



高校生ボランティア活動(下通り献血ルーム)

令和6年度から始めた下通り献血ルームCOCOSAの取り組みで、近隣の高校および「熊本市市民活動支援センター・あいぽーと」の掲示板にて、献血呼びかけボランティアを募集しています。令和7年度は夏休み期間を中心に442名の申し込みがありました。また、下通りアーケードでの献血呼びかけを中心に、6時間以上活動をしていただいた生徒には「ボランティア活動証明書」を発行しました。高校生の呼びかけがあった日には多くの献血協力をいただくことができました。



高校別ボランティア申し込み人数

高校名	人数	高校名	人数	高校名	人数	学年別	人数
県立熊本工業高校	57	志成館高等学院	10	玉名女子高校	4	1年生	73
県立東稜高校	50	県立熊本高校	9	県立熊本商業高校	3	2年生	188
熊本国府高校	47	九州学院高校	9	県立小川工業高校	3	3年生	179
慶誠高校	36	尚綱高校	8	北九州予備校	2	浪人生	2
県立第一高校	35	真和高校	6	県立済々巽高校	2	計	442
熊本中央高校	25	開新高校	5	トライ式高等学校	2		
ルーテル学院高校	25	県立菊池農業高校	5	ヒューマンキャンパス高校	2		
熊本信愛女学院高校	16	県立熊本農業高校	5	マリスト学園高校	2		
文徳高校	15	城北高校	5	市立千原台高校	1		
熊本学園大学付属高校	14	県立熊本北高校	4	鎮西高校	1		
県立鹿本商工高校	13	県立第二高校	4	勇志国際高等学校	1		
第一学院高校	12	県立熊本西高校	4	計	442		

学校数 35校

熊本県学生献血推進協議会

県内9大学から集まる大学生ボランティアによる組織です。各大学内で実施される献血の推進活動をはじめとして、献血イベントや九州各県の学生ボランティアとの交流活動など、若年層への献血普及啓発を中心に展開しています。

協議会加盟大学

- 熊本大学
- 熊本県立大学
- 熊本学園大学
- 崇城大学
- 東海大学 (熊本キャンパス)
- 尚綱大学・尚綱大学短期大学部 (九品寺キャンパス)
- 九州ルーテル学院大学
- 九州看護福祉大学
- 熊本保健科学大学



崇城大学 3年 永野 璃鳳さん (ながの りお)

若い世代に献血の大切さを伝え、より多くの方にご協力いただけるよう積極的に活動していきます。

街頭イベント呼びかけ



クリスマス献血キャンペーン

献血推進・広報活動

① 献血セミナー

県と血液センターでは、若い世代を中心に献血について関心を持っていただくため、高校・専門学校等に講師を派遣し、「献血セミナー」を実施しています。令和7年度は、高校・専門学校合わせて20校で開催し、計3,544名の皆さまに献血の必要性や重要性を学んでいただきました。



献血セミナーの様子

② 献血イベント

県民の皆さまに献血のことをもっとよく知っていただくために、熊本県学生献血推進協議会と協力するなど、イベントを実施しています。

「愛の血液助け合い運動」 (7月1日～31日)

学生ボランティアによる献血呼び掛け
7月12日(土) 下通アーケード

「はたちの献血」キャンペーン (1月1日～2月28日)

キャンペーンCM放送、学生ボランティアによる献血呼び掛け
1月12日(月) 下通アーケード

赤十字フェスタ 2025 in 日赤熊本

支部、病院、血液センター、健康管理センターの合同イベント。血液センターのコーナーでは、献血ミニセミナー、キッズ献血を実施
11月2日(日) 日赤熊本



全国学生クリスマス献血キャンペーン (12月1日～31日)

学生ボランティアによる献血呼び掛け
12月14日(日)
下通アーケード、イオンモール熊本(嘉島町)、ゆめタウン光の森(菊陽町)

キッズおしごとチャレンジ in イオンモール熊本

血液センターのコーナーでは、移動採血車内の見学、模擬血液を使用した供給体験、キッズ救護服お着替え体験、車両展示などを実施
9月21日(日) イオンモール熊本(嘉島町)

▼「キッズおしごとチャレンジ」



- 県立菊池農業高等学校 農業科コラボイベント
- 慶誠高等学校 パティシエコースコラボイベント

③ 献血キャンペーン

10～30代初めて献血キャンペーン (4月1日～3月31日)

10～30代で初めて献血にご協力いただいた方に「充電ケーブル」や「ラーメン+お菓子」をプレゼント。



その他、随時キャンペーンを実施しました

- 一緒に行こう献血キャンペーン
- 夏を乗り切れ！献血キャンペーン
- 献血の日くじ引きキャンペーン
- ハロウィンキャンペーン
- クリスマスキャンペーン
- ゆく年くる年献血キャンペーン
- 2026年運試し！ガチャガチャキャンペーン
- Warm or sweet 献血キャンペーン
- 愛を届けよう献血キャンペーン



ありがとうのメッセージ

皆様の善意の献血のおかげで、
今、生きています。
もし、献血(輸血)がなければ、
どうなっていたかわかりません。
自分が輸血を受けなければ
いけなくなる日が来るとは思いもせず
日々を過ごしていました。
本当に献血をされた皆様
ありがとうございます。

私は、急性骨髄性白血病を患い、
何度も輸血を経験しました。
輸血なしでは生きることが難しかった私に、
献血をして下さった方々の善意により頂いた輸血で、
今は元気に生きています。
病気になった時には子供がまだ小さく、
不安な日々でしたが、今では子供も楽しく過ごす
ことができています。
勇気を持って献血して下さった方々に感謝しかありません。
あなたの善意で助かる命がたくさんあります。
どうか、献血をして下さる方がたくさん増えますように。

いつもありがとうございます
お陰様で生命が繋がっています
貴方の勇気、元気を
ありがとうございます

私は、白血病を患いました。
赤血球や血小板を輸血していただきました。
お陰様で現在は 退院後4年目を迎えており
体調も良く 仕事や孫たちと遊んだり
出掛けたりして過ごしています。
献血者の皆さんの協力があって治療することができました。
本当に感謝しかありません。
生きることの素晴らしさを与えてくださったと思っています！
ありがとうございます m(_ _)m

骨髄バンク事業

骨髄バンク事業は、「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律（平成24年法律第90号）」に基づく骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者として、日本骨髄バンクが主体となり、日本赤十字社及び地方自治体の協力により行われている公的事業です。

赤血球にA・O・B・ABの血液型があるように、白血球にも型（HLA型）があります。その組み合わせには数万通りあり、骨髄または末梢血幹細胞移植のためには、HLA-A、B、C、DRの4座の適合度を確認することが必要です。兄弟姉妹間では4分の1の確率で一致しますが、非血縁者間では、数百から数万分の1の確率でしか一致しません。そのため、広く一般からドナーを募る骨髄バンクが必要となります。日本で骨髄移植や末梢血幹細胞移植を必要としている患者さんは、毎年少なくとも2,000人を数え、一人でも多くのドナー登録が不可欠です。ドナー登録は、献血ルームや献血バス、一部の保健所で実施しています。申込書の記入と2mLの採血で、所要時間は15分程度です。

なお、令和7年度の本県におけるドナー登録状況につきましては、新規ドナー登録者が1,110人（前年度比83.0%）、登録者総数は12,024人（令和8年3月末現在）になりました。登録対象年齢人口千人当たりにおける登録者数は18.1人と、全国平均10.5人を上回っています。



骨髄提供の流れ

① ドナー登録

ドナー登録は腕の静脈から約2mLを採血し、HLA型（白血球の型）を調べます。



② 適合したら

患者さんのHLA型と適合した場合は、骨髄・末梢血幹細胞の提供について詳しい説明があります。



③ 最終同意

立会人同席のもとドナー候補者の最終的な提供意思が確認されます。（家族の同意も必要となります）



④ 骨髄提供の場合

通常3泊4日の入院をすることになります。腸骨（腰の骨）から注射器で骨髄液を採取されます。



⑤ 末梢血幹細胞の場合

白血球を増やす薬を3～4日注射し、通常1泊2日の入院をします。腕に針を刺し、血液中の造血幹細胞だけを取り出されます。

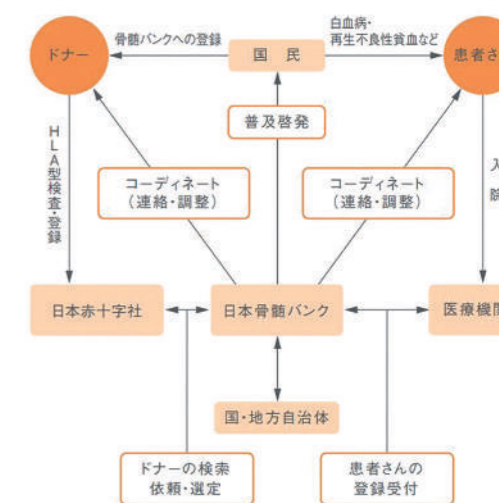


⑥ 提供後、数日内で退院*

（※採取方法によって異なります）
採取後は数日内で退院し、日常生活に戻ることができます。退院後は、健康診断を行うなど、回復するまでフォローアップがあります。



骨髄バンク事業の体系図▼



■ 骨髄バンクに関するお問い合わせ

日本骨髄バンク

ドナーバンク
TEL 03-5280-1789
（資料請求・問い合わせ専用）平日9時～17時30分
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F

<https://www.jmdp.or.jp/>

日本骨髄バンク 検索





日赤プラザ 献血ルーム

熊本市東区长嶺南2丁目1-1 (血液センター1F)

TEL 096-384-6727

献血受付時間

全血	9:00~12:00 13:00~16:30
成分	9:00~12:00 13:00~16:00



- 駐車場完備
- 日・祝日定休日
- ※ 土曜日が祝日の場合は開所



下通り献血ルーム COCOSA

熊本市中央区下通1丁目3-8 (下通NSビル5F)

TEL 096-325-9218

献血受付時間

全血	10:00~13:00 14:00~17:30
成分	10:00~13:00 14:00~17:00



- 火曜定休日
- ※ 火曜日が祝日の場合は開所



献血ルーム
ではこんな
サービスも
充実して
います!



移動採血車

移動採血車の日程は、熊本日日新聞（電子版）及び下記ホームページに掲載しております。

詳細については各保健所、各市町村の担当課、血液センターにお問合せください。

検査目的の献血は輸血を必要とする患者さんの安全のためにお断りしています。

■エイズ検査は保健所へ… ● 無料、匿名で受けられます。 ● 検査日などは最寄りの保健所へお尋ね下さい。

熊本県赤十字血液センター

〒861-8039 熊本市東区长嶺南2丁目1-1 TEL 096-384-6000 (代)

E-mail ▶ kmmt-somu@qc.bbc.jrc.or.jp

ホームページ ▶ <https://www.bs.jrc.or.jp/bc9/kumamoto/>



最新NEWSや
献血バスの
運行予定など
情報が満載です

熊本県赤十字血液センター